

記憶の低下

小嶋祥三

テレビのコマーシャルに出てくる女優さんの名前がすぐに出てこなくなったことは前に書いた。それに関連して最近面白く感じられたことを一筆。ある女優さんが「さかなクン」とコマーシャルにでていた。名前を思い出そうとしたが、出てこない。ただ、この女優さんが朝の情報番組の司会をやっていることは知っていたし、たまにその番組を観ることもあった。しかし、名前は出てこなかった。ある朝、偶然にその番組にチャンネルを合わせた。あの女優さんも映っている。その時、急に「真矢ミキ」という名前が浮かんできた。テレビの映像で名前が引き出されたのだろうか。外部 cue なしの recall と cued recall の違いだろうか。一般に、他人の名を思い出そうとする時、その人に関連するいろいろな事象を手掛かりにして思い出そうとするだろう。若いころは自動的、あるいは少しの努力でそのようなネットワークが利用できたのだろう。「今月の認知神経科学」2017年6月で高齢者の記憶や認知の低下について、dedifferentiation 仮説とか unitization の低下といった仮説が問題になっていた。両方とも当てはまるように思うが、どうだろうか。

先日の京都大学霊長類研究所 50 周年の祝賀会で、大学院生だった三谷雅純さんに会った。かれもサルの声に興味を持っていた。かれは現在兵庫県立大学の自然・環境科学研究所の准教授だが、左手で料理を食べていた。かれが左利きだった記憶はなかったので質問したところ、脳血管障害で右手が不自由になったといていた。しかし、かれは研究を続けていたし、その境遇を楽しんでいる？かのように、障がい者がらみの研究もしており、とても感銘を受けた。

わたしも老化を楽しもうと思っている。上に挙げた記憶の低下の観察はその一例だ。それに関連して、以前通勤で下車していた地下鉄の駅名を思い出せず、途中の駅名は覚えていたことを書いた。それは repetition suppression が要因の一つだろうか。